

粗放栽培

できそろうな品目を植える

荒廃農地に植えた 早生樹センダンを 見に行つた

熊本県天草市・苓北町 梅檀せんだんの未来研究会

センダンは、西日本を中心に自生する落葉広葉樹。15〜20年で直径40cm、樹高15mほどになる「早生樹」で、子や孫の代を待たず、植えた本人の代での伐採も可能な木だ。その植栽地として注目されているのが、使い切れなくなった農地。7月下旬に「梅檀の未来研究会」を訪ねた。

文〓編集部 写真〓戸倉江里



福田国弘さん。研究会は2016年に立ち上げた。メンバーは農家や林家など15人



ミカン畑にセンダンを植えた

曲がりくねった農道を上っていくと、そこに広がっていたのは勾配の急なミカン畑だった。「ほら、あれだ」。園主の平田光洋さん（74歳）が指すほうを見上げると、まっすぐに伸びたセンダンは並んでいた。

平田さんはカンキツを約2ha栽培する農家だ。「息子は農業せんやろっし、畑は坂がきつくて。自分の歳を考えたからこれまで通り維持できん。そんな時センダン植えてみんかって誘われた」。生長が早く、手間がかかるのは最初の2年だけ。畑を荒らさないのはもちろん、子供の退職祝いになればいいと、2016年、段々畑の上のほう15aに60本植えてみた。

果樹や花木をやる感覚に近い

平田さんにセンダンを勧めたのは、「梅檀の未来研究会」の代表・福田国弘さん（61歳）だ。県の指導林家でも



2016年に植えたセンダン（センダン科センダン属）と平田光洋さん。5年でこの生長ぶり！ 枝下の通直な部分が材になる